

奈文研本庁舎発掘だより

第1回 2014年4月14日（月）から4月28日（月）まで

本庁舎南棟東部分の上部構造の解体が終わり、建物基礎や地中梁に囲まれた四角いマスの中を一つずつ重機で掘削し始めました。すると、50年前の病院建設時の掘削が、現地表面から2.5m以上の深さに及んでいることが明らかになりました。そこで、安全確保のため、地中梁を先に撤去することにしました。現在、地中部柱と基礎が林立するプールの底のようなところで発掘調査を進めています。
(都城発掘調査部)



①4/14 地中梁を残して掘削を始めました。



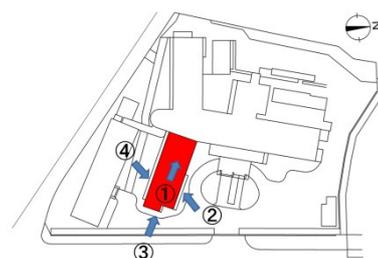
②4/21 水がたまとまるのでプールのようです。



③4/28 やっと発掘現場らしくなってきました。



④4/28 発掘調査について記者発表を行いました。



奈文研本庁舎発掘だより

第2回 2014年4月30日（水）から5月9日（金）まで

本庁舎南棟東部分の調査区で、基礎杭の間の遺構検出を行いました。奈良時代の遺構面は、中世の秋篠川の氾濫によって大きく削られ残っていませんでした。この秋篠川の流れは、奈良時代よりも前からあったようで、現地表から約2.5mより下には、沼状の黒色土が厚く堆積しています。検出した遺構は、中世以降の耕作溝が中心です。それらを図面や写真で記録するとともに、今回は高所作業車により調査区全体の写真撮影を行いました。

（都城発掘調査部）



①4/30 遺構の検出作業をしています。



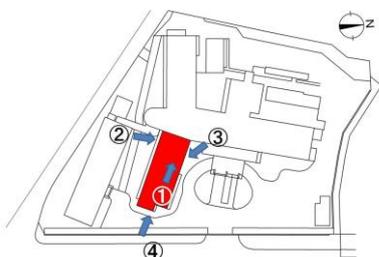
②5/2 遺構実測図を作成しています。



③5/2 高所作業車を使って写真を撮影します。



④5/2 高所作業車から撮影した全景です。



奈文研本庁舎発掘だより

第3回 2014年5月12日（月）から5月16日（金）まで

引き続き本庁舎南棟東部分の調査を進めています。前回お知らせした現地表から約2.5mより下に堆積する黒色土を掘り下げたところ、最下層には葉のついた枝などが堆積していることがわかりました。本庁舎南側の旧研修棟部分の調査も開始しましたので、この黒色土の広がりや性格、そして奈良時代の遺構面を壊している秋篠川の氾濫範囲が明らかになることが期待されます。

（都城発掘調査部）



①5/13 黒色土を部分的に掘り下げています。枝が見えます。



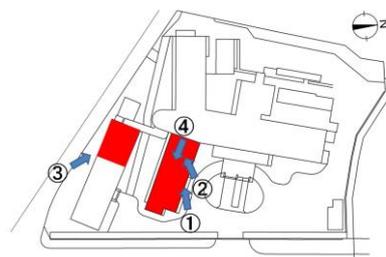
②5/16 杭を残し基礎上部を撤去後、黒色土を掘り下げます。



③5/16 旧研修棟部分の調査も始まりました。



④5/13 黒色土掘り下げ前に基礎を撤去しました。



奈文研本庁舎発掘だより

第4回 2014年5月19日（月）から5月23日（金）まで

旧研修棟部分の調査を進めています。調査区北半には、秋篠川の氾濫による灰色砂層が厚く堆積しています。一方、南半は旧地形がやや高まっていて、秋篠川の氾濫が及んでいないようです。この部分では瓦や土器の破片が出土しています。また、本庁舎南棟東部分の黒色土の掘り下げ作業が一段落し、現在出土遺物の検討を行っています。

（都城発掘調査部）



①5/20 旧研修棟部分の遺構検出の様子です。



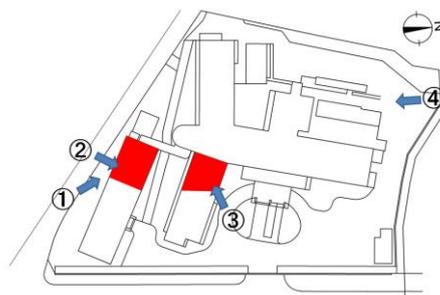
②5/20 旧研修棟部分南半では瓦や土器が出土しています。



③5/22 この部分の黒色土の掘り下げも一段落です。



④5/22 まもなく解体も終わりで、感慨もひとしおです。今後はこちらにも調査を進めます。



奈文研本庁舎発掘だより

第5回 2014年5月26日（月）から5月30日（金）まで

引き続き旧研修棟部分の遺構検出作業を行っています。秋篠川の氾濫による洪水砂や、黒色土の範囲も明らかになりつつあります。また、調査区南側の旧地形がやや高まった部分には、奈良時代の整地土が一部残っていました。

本庁舎南棟東部分との間にあった中庭部分にも調査区を広げており、今後さらに南棟西部分へと調査を進めていく予定です。

（都城発掘調査部）



①5/28 遺構の検出作業をしています。



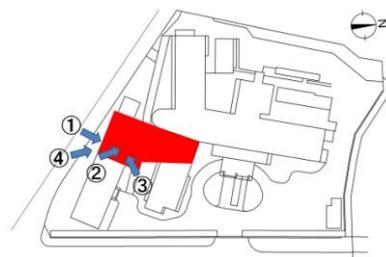
②5/28 整地土からも瓦や土器が出土しています。



③5/29 土を薄く削りながら遺構の有無を調べます。



④5/30 旧庁舎の上屋がなくなると、敷地の広さが実感されます。



奈文研本庁舎発掘だより

第6回 2014年6月2日（月）から6月6日（金）まで

敷地南部にあった旧研修棟部分の調査を進めています。調査区西辺で土層を観察したところ、旧河川に伴う土が数段階にわたって堆積している状況が見えてきました。現在の調査区（図の赤色部分）の南部に残っていた奈良時代の整地は、これらの旧河川に由来する窪地を埋めておこなわれていたようです。

また、本庁舎南棟西部分の調査も開始し、遺構検出作業をおこなっています。
(都城発掘調査部)



①6/2 調査区西側の土層断面です。



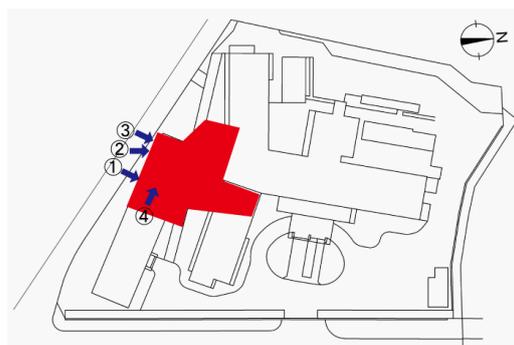
②6/4 本庁舎南棟西部分の調査を開始しました。



③6/4 小さな穴を検出しました。



④6/4 検出した小穴を掘り下げています。



奈文研本庁舎発掘だより

第7回 2014年6月9日（月）から6月13日（金）まで

敷地南部の旧庁舎南棟西部分の調査が本格化しています。重機による掘削と基礎の撤去が終了し、現在遺構検出作業をおこなっています。研究所の敷地中央を秋篠川の旧流路が北西から南東方向へ流れていたことが分かってきました。また、旧研修棟部分については実測図や写真による記録の作成をおこないました。

（都城発掘調査部）



①6/11 南棟西部分の遺構検出作業の様子です。



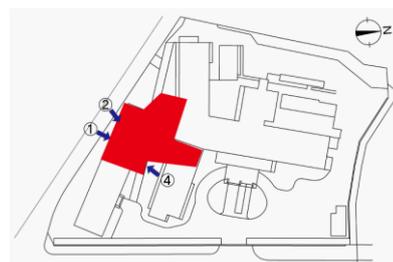
②6/12 調査区がかなり広くなりました。



③旧研修棟部分の図面を作成しています。



④6/13 撮影した写真です。



奈文研本庁舎発掘だより

第8回 2014年6月16日（月）から6月20日（金）まで

敷地南部の旧庁舎南棟西部分と旧研修棟部分の調査を進めています。敷地内を流れていた平城京造営以前の秋篠川の旧流路と、これを埋め立てた黒色土の範囲が明らかになってきました。

奈良時代の整地土が残っていた旧研修棟部分でも、整地土を掘り下げて、秋篠川旧流路の範囲を確認しています。

（都城発掘調査部）



① 6/17 南棟西部分の遺構検出作業です。



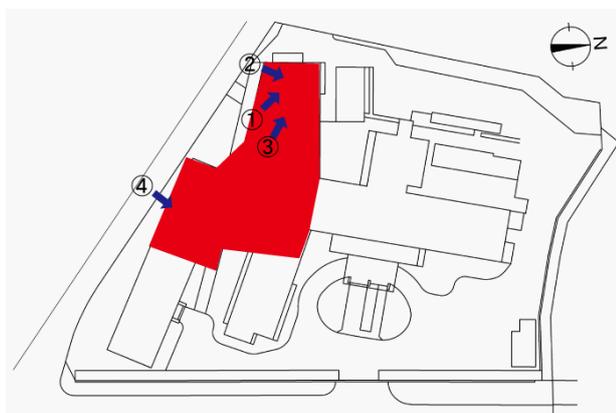
②6/17 秋篠川旧流路の南岸を掘り下げています。



③6/18 黒色土の広がりが見えてきました。



④6/16 旧研修棟部分の掘り下げの様子です。



奈文研本庁舎発掘だより

第9回 2014年6月23日（月）から6月27日（金）まで

敷地南部の調査所見がまとまりつつあります。検出した遺構について、所員による現場検討会をおこないました。また、旧研修棟部分では奈良時代の整地土を掘り下げたところ、大型の土坑を検出しました。埋土から土器・瓦・木簡などが出土しています。この他、秋篠川旧流路を埋め立てた黒色土を掘り下げて、その底に敷かれた枝や葉の範囲を確認しています。

(都城発掘調査部)



①6/23 所内検討会の様子です。

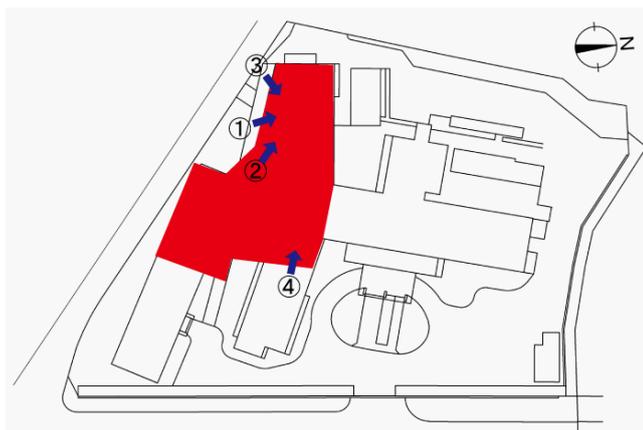


②6/24 大型の土坑を掘り下げています。



③6/23 黒色土層下の枝や葉を検出しています。

④6/25 黒色土の南肩が見えてきました。



奈文研本庁舎発掘だより

第10回 2014年6月30日（月）から7月4日（金）まで

敷地南部の調査により、秋篠川の旧流路が平城京造営時に埋め立てられていたこと、埋め立てに際して古代の土木技術である「敷葉（敷粗朶^{しきば}＝敷枝^{そだ}）工法」が行われていたことが明らかになってきました。今週はこの敷葉（敷枝）を広く出して、写真を撮影しました。また、調査成果について記者発表を行いました。（都城発掘調査部）



③ 6/30 丁寧に枝や葉を出していきます。



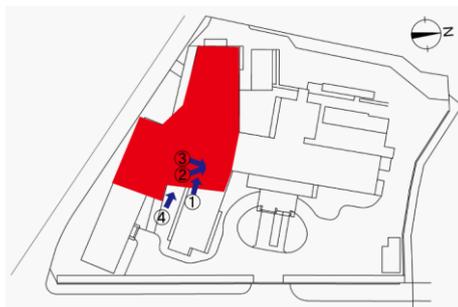
③7/1 方向をそろえて枝を敷き詰め、それに直交させるかたちで、また枝を敷き重ねています。



②7/1 土を除いた直後の葉は緑色です。



④7/3 撮影した全景写真です。



奈文研本庁舎発掘だより

第11回 2014年7月7日（月）から7月11日（金）まで

台風8号の接近で、現場の養生にも追われましたが、今週も敷地南部の調査を進めています。流路の南岸で検出した遺構について平面図をとった上で、断ち割り調査をおこない、断面図を作成しました。

また調査区をさらに北へと広げるべく、重機による掘削も始めました。

(都城発掘調査部)



①7/9 続く雨に悩まされました



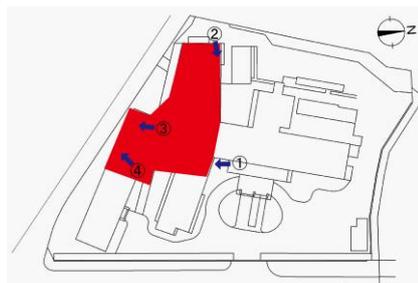
②7/9 調査区をさらに北へと広げています。



③7/11 検出した遺構は図面・写真で記録します。



④7/11 南岸の遺構を断ち割り調査しています。



奈文研本庁舎発掘だより

第12回 2014年7月14日（月）から7月18日（金）まで

強い日差しが連日照りつけ、いよいよ夏本番。研究員の日焼けも目立ってきました。今週は、黒色土の下の敷葉の検出範囲を広げ、大判写真撮影、三次元測量をおこないました。実測図による記録も継続中です。そして、広げた敷地西辺の調査区でも、遺構の精査をはじめています。

（都城発掘調査部）



①7/14 根気よく、敷葉の検出をつづけます



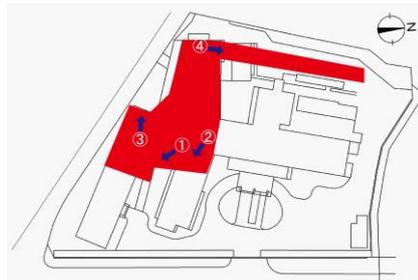
②7/18 大判写真の撮影です



③7/17 断面図の作成はまだまだつづきます



④7/18 調査区北西部の精査をはじめています



奈文研本庁舎発掘だより

第13回 2014年7月22日（火）から7月25日（金）まで

今週は検出状況を記録し終えた敷葉・敷枝について、樹種鑑定などの分析のためのサンプリングをおこないました。また、秋篠川流路の南岸で検出した古代の井戸の掘り下げを進めています。新たに拡張した敷地西辺とその北端で遺構の精査をおこない、小穴などが見えてきています。（都城発掘調査部）



①7/23 井戸を掘り下げ、記録しています。



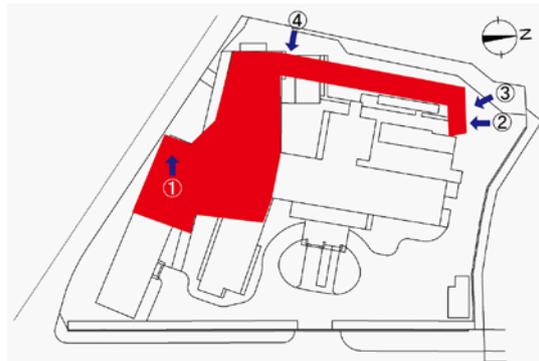
②7/22 拡張部分で遺構を精査しています。



③7/24 調査区西北辺の遺構検出状況です。



④7/25 小穴がみえてきました。



奈文研本庁舎発掘だより

第14回 2014年7月28日（月）から8月1日（金）まで

今週は、記録・調査をし終えた敷葉・敷枝の面を掘り下げました。下には粘土層が広がり、その一部は土壌分析のため、サンプリングをおこないました。

調査区の西部は、各土層について、遺構の有無を確認しながら掘り下げています。北部西半の調査区もだいぶ広がってきました。（都城発掘調査部）



① 7/28 敷葉・敷枝の下には粘土層が広がります。



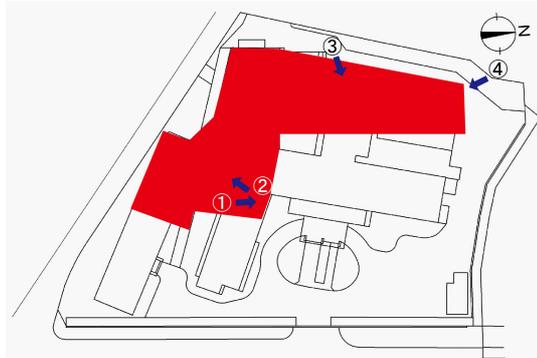
② 7/29 土壌分析のためのサンプリングです。



③ 8/1 遺構の有無を確認しながら、掘り下げます。



④ 8/1 北部西半の調査区も広がってきました。



奈文研本庁舎発掘だより

第 15 回 2014 年 8 月 4 日（月）から 8 月 12 日（火）まで

調査区東南部の秋篠川旧流路の敷葉の下を一層位ずつ掘り下げてゆくと、人や牛馬の足跡と考えられる凹凸がみえてきました。足跡を記録した後、1つずつ丁寧に掘ります。調査区の西辺については、遺構の有無を確認しながらの掘り下げが続いています。

日本各地に被害をもたらした台風 11 号で、現場もすっかり水没してしまいました。排水して調査を仕切りなおします。（都城発掘調査部）



①8/4 敷葉の下を掘り下げると、足跡がみえてきました。



②8/6 足跡も1つずつ丁寧に掘り下げます。



③8/8 調査区西辺では、遺構の有無を確認しながらの掘り下げが続いています。



④8/11 台風 11 号により、水没した現場。復旧を急ぎます。



奈文研本庁舎発掘だより

第 16 回 2014 年 8 月 18 日（月）から 8 月 22 日（金）まで

今週は台風 11 号で水没してしまった現場の復旧を終え、本格的な調査を再開しました。調査区北西部では、近世の井戸など、検出した遺構の記録を終えました。22 日には、調査区西部で検出した地震痕跡について、記者発表をおこないました。
(都城発掘調査部)



①8/19 水没から復旧しました。



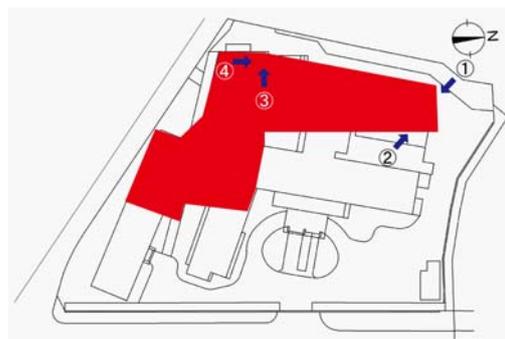
②8/21 調査区北西部では、検出した遺構の記録を終え、さらに掘り下げを進めています。



③8/21 調査区西部で、確認された地震痕跡です。砂が下から上へ噴き上げた様子がわかります。



④8/22 報道各社に、地震痕跡について発表をおこないました。



奈文研本庁舎発掘だより

第17回 2014年8月25日（月）から8月29日（金）まで

調査区東南部と西北部で調査を続けています。以前に秋篠川旧流路で検出した敷葉層（上層敷葉）を掘り下げたところ、その下にもう一層、敷葉（下層敷葉）が広がることを確認しました。調査区北西部では、遺構面を精査し、奈良時代以前から中近世までの各時代の流路の範囲等を検出して、全景写真を撮影しました。
(都城発掘調査部)



① 8/27 調査区東南部では秋篠川旧流路を掘下げ、下層敷葉を検出しています。



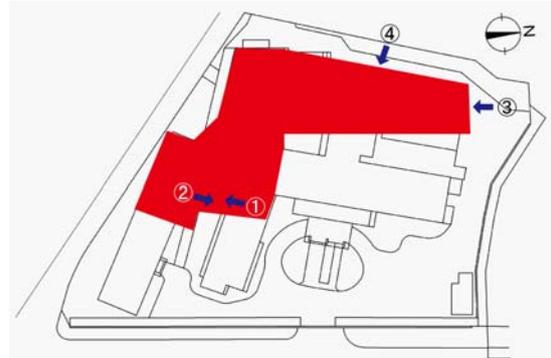
②8/29 下層敷葉の上面では哺乳類の骨なども出土します。



③8/29 調査区西北部では遺構の精査を終了し、全景写真を撮影しました。



④8/29 調査区西北部では井戸も検出しています。



奈文研本庁舎発掘だより

第18回 2014年9月1日（月）から9月5日（金）まで

調査区西北部では、検出した遺構の実測図を作成しました。調査区東南部では、秋篠川旧流路下層敷葉の範囲を確認し、写真撮影をおこないました。また、上層敷葉を含む土層のブロックを、分析および保存用に取り上げました。調査区東北部では今週から調査を開始しました。（都城発掘調査部）



① 9/2 調査区東南部では上層敷葉を含む土層をブロック状にしてまるごと取り上げました。



②9/5 調査区東南部の秋篠川旧流路下層敷葉の面からは切り株も頭を出しています。



③9/5 下層敷葉の検出を終え、写真撮影をおこないました。



④9/2 調査区東北部では北へ向かって調査を開始しました。



奈文研本庁舎発掘だより

第19回 2014年9月8日（月）から9月12日（金）まで

今週も、調査区各部分について同時並行で調査を進めています。東南部では検出した下層敷葉の面の実測作業をおこなった上で、再び掘り下げ始めました。西北部では奈良時代の遺構面の掘り下げをおこなっています。調査区西壁では、地震痕跡が明瞭な土層を保存するために剥ぎ取りをおこないました。東北部では調査区の拡張を継続しています。
(都城発掘調査部)



①9/10 東南部では下層敷葉の面を実測し、記録しました。



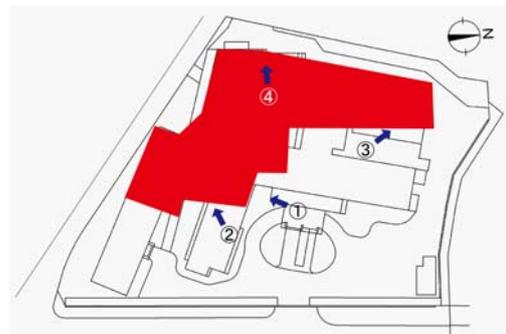
②9/11 下層敷葉の面で検出した斜行溝を掘り下げたところです。



③9/11 調査区西北部では、奈良時代の遺構面の掘り下げをおこなっています。



④9/8 調査区西壁では、地震痕跡が明瞭な土層を保存するために剥ぎ取りをおこないました。



奈文研本庁舎発掘だより

第20回 2014年9月16日（火）から9月19日（金）まで

調査区東南部では秋篠川旧流路に水が流れていた時の堆積土を検出し、写真撮影をおこないました。また、旧流路の下層敷葉からは馬の骨が出土しました。調査区西北部では、木の切り株などが旧流路の肩口に並べ置かれた状況を検出、記録をおこなうとともに、この流路とは別の落ち込みを検出し、堆積した有機物の出土状況を検出、記録しました。
(都城発掘調査部)



① 9/19 東南部では、旧流路の堆積土を検出。全景写真の撮影前には周囲を清掃します。



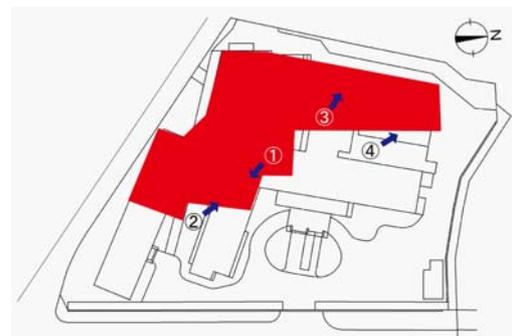
②9/19 下層敷葉面で検出したウマの骨を写真撮影しました。



③ 9/17 調査区西北部では、旧流路の肩口に切り株などが並ぶ状況を検出しました。



④9/19 ③の流路と別の落ち込みも確認し、掘下げを進めています。



奈文研本庁舎発掘だより

第21回 2014年9月22日（月）から9月26日（金）まで

調査区東南部では、秋篠川旧流路の掘り下げを継続しています。下層敷葉の下の埋め立て土の中から太い樹木の幹などが検出されました。調査区西北部では、検出した落込みを継続的に掘り下げた結果、約3mの深さに及ぶ古墳時代の溝であることがわかりました。また、奈良時代の井戸の断割調査をおこない、底面に曲物を据え付けた状況を確認しました。（都城発掘調査部）



① 9/26 東南部では、流路の埋立土なかで樹木の幹などが検出されました。



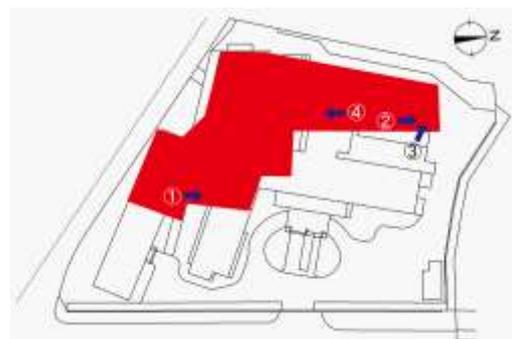
② 9/22 西北部の落込みからも、枝などが出土しています。



② 9/26 西北部の落込みは3mに及びます。



③ 9/26 奈良時代の井戸の底面には曲物が据え付けられています。



奈文研本庁舎発掘だより

第22回 2014年9月29日（月）から10月3日（金）まで

調査区東南部では、流路の掘り下げを継続し、さらに下層で三層目となる敷葉を検出しました。西北部では、流路の埋立土から切株が多数出土しました。切株は一つずつ取り上げ、加工の痕跡を調査します。また、同じく西北部で、古墳時代の溝の北半を完掘しました。
(都城発掘調査部)



① 10/3 東南部では三層目の敷葉を検出



② 10/2 西北部の古墳時代の溝は急な傾斜をもつ



③ 9/30 西北部の流路埋立土から切株が多数出土



④ 10/2 切株に残る加工の痕跡などを記録



奈文研本庁舎発掘だより

第23回 2014年10月6日（月）から10月10日（金）まで

調査区東南部では、流路に堆積する粗砂を掘り下げ、その状況を記録しました。粗砂からは、古墳時代の土器を中心とした、多くの遺物が出土しています。西北部では、古墳時代の溝の南半を掘り下げました。また、洪水による粗砂層などを掘り下げた後、順次、埋め戻しを始めました。（都城発掘調査部）



①10/9 東南部の流路には、粗砂がとても厚く堆積していました。



②10/10 粗砂を掘り下げた状況を写真撮影しました。



③10/09 西北部では、古墳時代の溝の南半を掘り下げました。



④10/08 西北部で洪水による粗砂層などを掘り下げ、順次埋め戻しはじめました。



奈文研本庁舎発掘だより

第24回 2014年10月13日（月）から10月17日（金）まで

調査区北部では、さらに1基の井戸が発見されました。また、調査区中央部では、一条南大路を横切る南北溝が、北で東西溝に接続することがわかりました。さらに、この東西溝の南岸では、約30cm間隔で打った杭の間に、枝を編み込むように挟み込んだ土留め工法がみつけられました。一方、調査区西南部では、古墳時代の遺物を含む土を掘り下げています。（都城発掘調査部）



①10/16 調査区北部でみつかった井戸。枠は抜き取られていたが、底に曲物が残っていた。



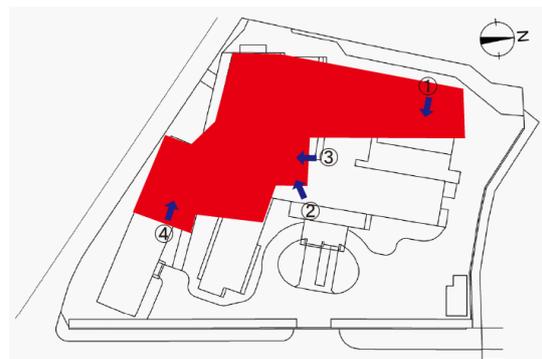
②10/15 新しくみつかった東西溝。溝の南岸の下部に杭を打って枝を編む工法が残る。



③10/16 東西溝の南岸で確認した土留め。



④10/17 南側、古墳時代の遺物を多く含む茶褐色土を掘り下げた。



奈文研本庁舎発掘だより

第 25 回 2014 年 10 月 20 日（月）から 10 月 24 日（金）まで

調査区西北部では、切り株のあった層を掘り下げ、その下層に敷葉層が広がることを確認しました。調査区東南部では、古墳時代の遺物を包む砂質土層もすべて掘り上げ、写真撮影をおこないました。さらに、調査区の壁で土壌サンプルを採取しました。調査区中央部で見つかったしがらみ土留め工法の東西溝は、3D写真撮影と三次元計測による記録を作成しました。



①10/24 調査区北西の運河で確認した下層の敷葉。



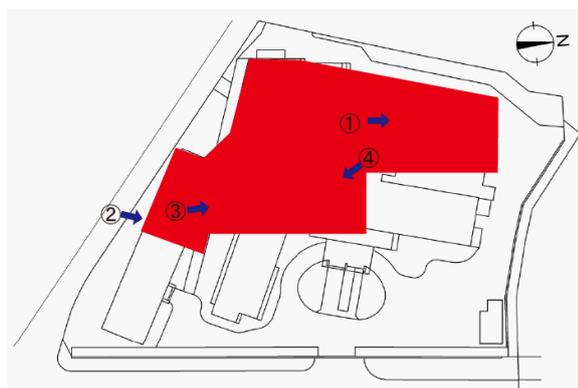
②10/22 古墳時代の遺物を含む砂質土層をとりきった運河状流路の南岸、写真撮影。



③10/21 調査区の壁で土壌サンプルを採取。



④10/20 東西溝南肩のしがらみ土留め工法の東西溝の3D写真測量。



奈文研本庁舎発掘だより

第26回 2014年10月27日（月）から10月31日（金）まで

しがらみ土留め工法をともなう東西溝は、ほぼ同じ場所で作り替えられ、3時期に分けられることがわかりました。2回目の溝の埋土から、曲物の底板や木簡などが出土しています。溝の北岸東寄りで平安時代前半の石組井戸がみつかりました。石組は3段程度しか残っていませんでしたが、底に曲物が残っていました。



①10/29 しがらみ土留め工法を伴う東西溝の埋土。



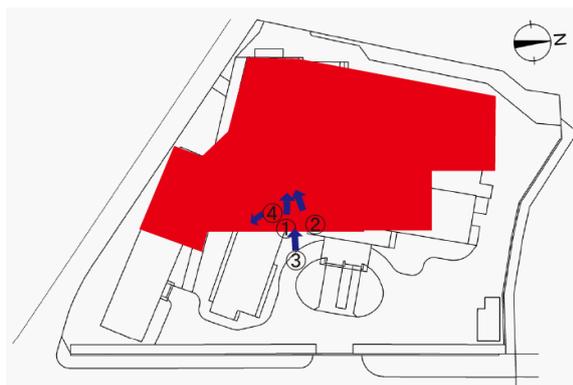
②10/29 溝埋土は、木簡をはじめとする木製品や土器、瓦を含む。



③10/29 3時期にわたる東西溝のうち、最も新しい溝はやや南にずれる。



④10/30 平安時代前半の石組井戸。



奈文研本庁舎発掘だより

第27回 2014年11月4日（火）から11月7日（金）まで

しがらみ土留め伴う東西溝を完掘し、写真撮影・実測による記録を作成しました。また調査区西部では、奈良時代中頃の暗灰色の粘土質の整地土上面で裸足の足跡を発見しました。さらに、その下の秋篠川旧流路を埋め立てた土の掘り下げに着手しています。調査区北部では、土器溜まりなどが見つかりはじめました。



①11/4 しがらみ土留めを伴う東西溝の埋土を完全に掘り上げる。



②11/4 奈良時代中頃の粘土質の整地土には、足跡の痕跡が残る。



③11/4 秋篠川旧流路の埋立て土を掘り下げ始める。



④11/6 調査区北部でみつかった土器溜まり。



奈文研本庁舎発掘だより

第28回 2014年11月10日（月）から11月14日（金）まで

しがらみ土留めを伴う東西溝とそれに接続する南北溝について、周辺調査のデータと正確な位置情報をもとに、所内の研究者を集めた現場検討会を開きました。また、調査区西部の秋篠川旧流路では、敷葉層の広がりを確認しています。さらに、調査区北部では井戸とみられる大型の土坑を掘り下げているところです。



①11/13 東西溝と南北溝の解釈などについて、都城発掘調査部を中心に検討会を開きました。



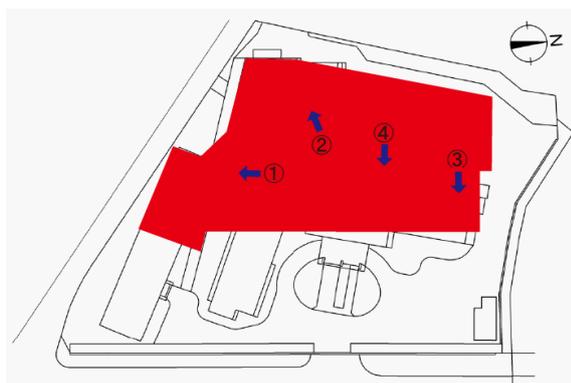
②11/14 秋篠川旧流路の一部を掘り下げて、敷葉層を丁寧に掘り出しました。



③11/1 調査区北部では大型の土坑を掘り下げています。



④11/14 秋篠川旧流路の北岸付近で斎串を伴う祭祀遺構が見つかり、実測しました。



奈文研本庁舎発掘だより

第29回 2014年11月17日（月）から11月28日（金）まで

調査区を部分的に南へ拡張し、東西に延びる奈良時代の道路側溝を確認しました。秋篠川旧流路では、敷葉と北肩の精査をおこない、埋蔵文化財センター遺跡調査技術研究室の協力でラジコンヘリによる敷葉層の3D写真撮影をおこないました。



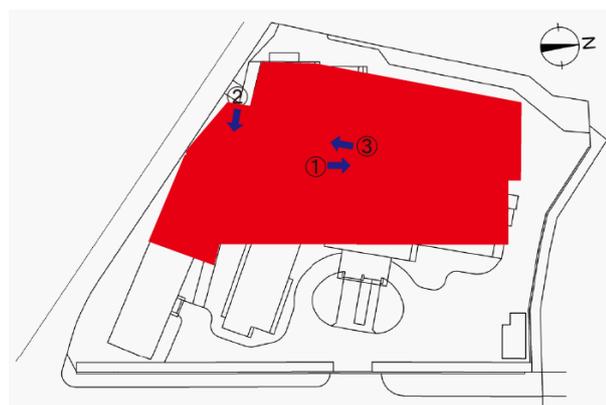
①11/28 埋蔵文化財センターの協力で秋篠川旧流路敷葉の3D写真計測をおこないました。



②11/29 南拡張区で東西に延びる奈良時代の道路側溝を確認しました。



③11/20 秋篠川旧流路の北肩に捨て込まれた切り株のまわりを精査しています。



奈文研本庁舎発掘だより

第30回 2014年12月1日(月)から12月5日(金)まで

北部で発見された大型の井戸の抜き穴のなかに、4本の支柱が残る小型の井戸が重複していることがわかりました。小型の井戸の中央付近には、廃絶時の祭祀とみられる土器を据えた穴もみつけられました。また、調査区のすぐ東隣にある平城宮の門(佐伯門)の中軸線などから計算し、検討を経た結果、二本の東西溝は平城京一条南大路の北側溝と南側溝の可能性が高いことがわかりました。さらに、南側の拡張区では、一条南大路の南側溝の南に築地の添え柱らしき痕跡を確認しました。



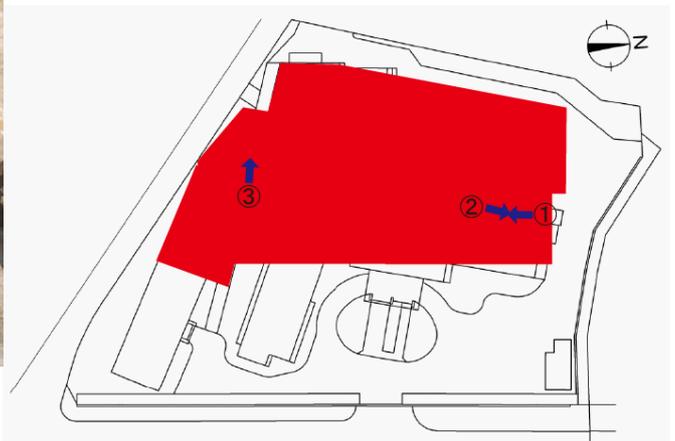
①12/3 大型の井戸の抜き穴の中で見つかった小型の井戸。



②12/2 新しく見つかった井戸を鎮めるための祭祀遺構。



③12/5 拡張区の南側で見つかった築地添え柱とみられる柱穴群。



奈文研本庁舎発掘だより

第31回 2014年12月8日（月）から12月12日（金）まで

調査区中央付近の東寄りで見つかった平安時代の土器を含む石組み井戸を掘り下げました。また、調査区北部で南北方向に設定した調査用の畦を掘り下げたところ、小さい石で周囲を囲う穴が見つかりました。祭祀遺構と考えられます。調査区北部で大型井戸の中に見つかった小型の縦板組の井戸は、井戸を鎮める祭祀とみられる祭祀遺構を掘り下げた後、井戸枠に番号をつけて、取り上げました。



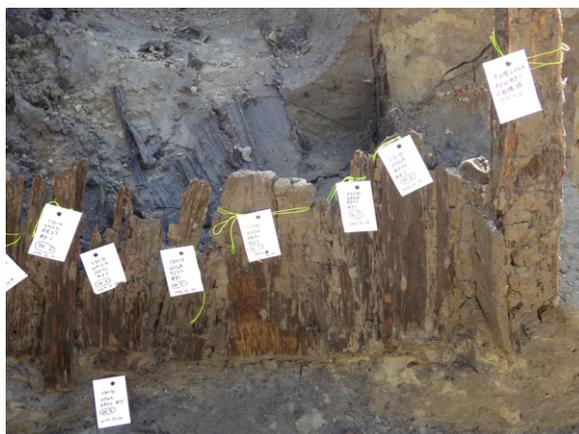
①12/8 平安時代の石組み井戸。中央には曲げ物を据える。



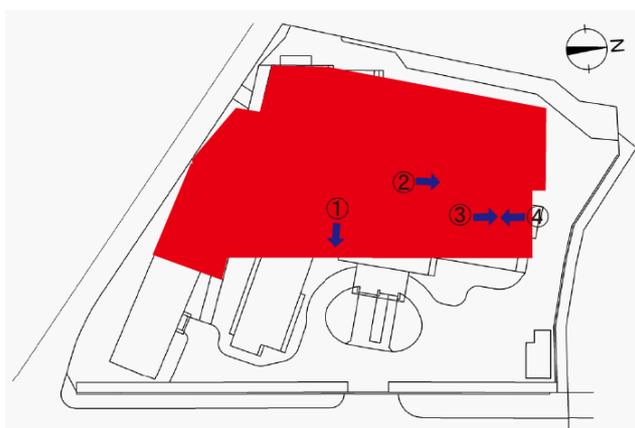
②12/10 石組みの穴のなかに土師器の皿が埋納してあった。



③12/8 縦板組井戸を鎮める祭祀遺構。黒色土器の碗が入っていた。



④12/10 調査区北部の縦板組の井戸の井戸枠。



奈文研本庁舎発掘だより

第32回 2014年12月15日（月）から12月19日（金）まで

南拡張区では築地添柱の可能性のある柱穴を断割りました。北部で検出した穴のうち、比較的大きな1基を掘り下げたところ、底面近くに小石を配し、中央に土器を据える特殊な遺構であることがわかりました。おそらく、奈良時代後半の祭祀遺構と考えられます。さらに、調査区の南部では古墳時代とみられる流路を掘り下げました。調査区北部には、水位のゆるやかな上下動によって形成された有機質を含む泥土が、薄く何層も沼のように堆積しています。



①12/18 南拡張区で見つかった柱穴の断割。



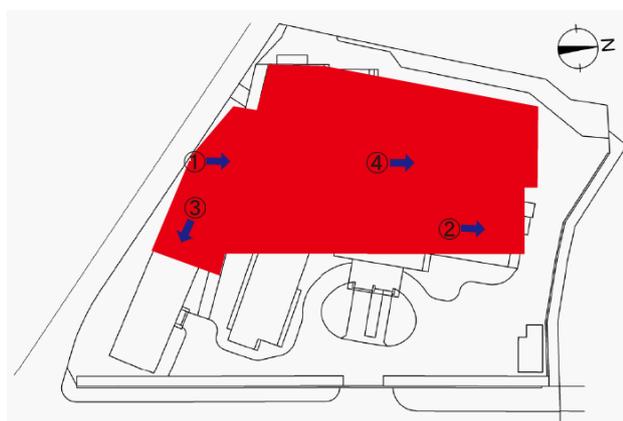
②12/19 調査区北部で見つかった土器埋納遺構。



③12/19 南部の古墳時代の流路を掘り下げた。



④12/19 調査区北部に広がる沼状の泥土堆積を掘り下げた。



奈文研本庁舎発掘だより

第33回 2014年12月22日（月）から12月25日（木）まで

調査区北部で見つかった大型の井戸を掘り下げたところ、西壁の底近くから木簡が出土しました。井戸の底には、一辺約2.1mの井戸枠の最下段が残っており、その中には拳大の礫が敷き詰められていました。調査区中央付近から北部にかけて広がる沼状の泥土堆積からは製材されたカシの木が出土し、その下層で地震による地割れの存在を確認しました。先史時代の地震痕跡である可能性が高く、記録保存と自然科学的年代測定をより厳密に行うため、土層剥ぎ取りを行いました。



①12/22 調査区北部の大型井戸を掘り下げる。



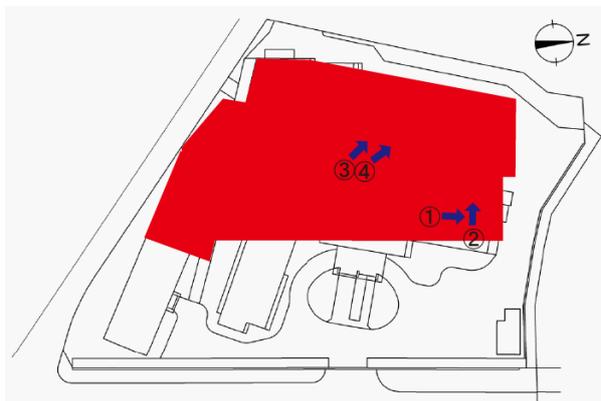
②12/22 井戸の西壁底付近で出土した木簡。



③12/24 沼状の泥土堆積と、その下層の堆積状況を記録するため、土層の剥ぎ取りをおこなった。



④12/24 沼状の泥土堆積の下層には、地震による地割れ痕跡が明瞭に残る。



奈文研本庁舎発掘だより

第34回 2015年1月7日(水)から1月9日(金)まで

一条南大路の北側溝より北側の秋篠川旧流路を掘り下げはじめました。その結果、平城京造営に先立って河川改修をおこなっていた可能性が高いことがわかりました。最終的に埋め立てられた流路からは、下層の敷葉の広がりを検出しました。調査区北部の大型井戸は、底の礫層を半裁したところ、中央に穴があることがわかりました。底に据えた曲げ物を抜き取った痕跡とみられます。



①1/7 東側にふくらむ流路の埋土を掘り下げる。



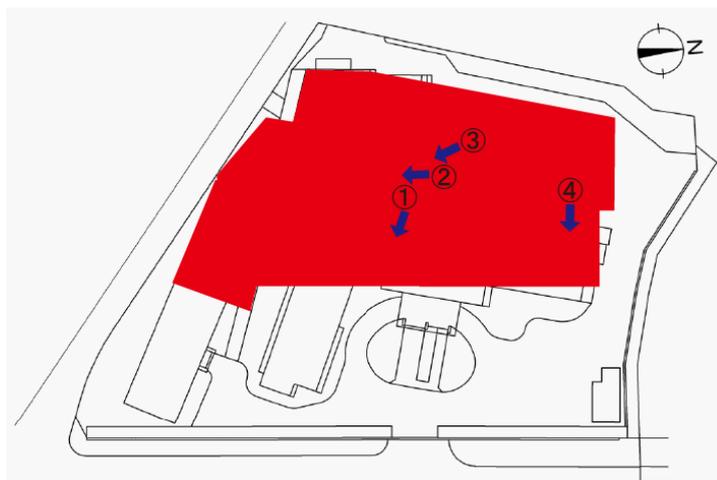
②1/8 最終的に埋め立てられた流路の東肩のさらに東側に古い流路の堆積土が続くことを確認した。



③1/8 最終的に埋め立てられた流路の下層の敷葉工法。



④1/9 大型の井戸の底でみつかった円形の穴。



奈文研本庁舎発掘だより

第35回 2015年1月13日（火）から1月16日（金）まで

調査区北部の大型井戸では、中央部分にみつかった曲げ物の抜取り穴も完全に掘り下げました。この抜取り穴を掘り下げると、下部で砂礫層にあたり、湧水することがわかりました。井戸枠の内側には、厚く敷かれた礫が井戸枠に押し付けられていた痕跡が多数見つかりました。調査区中央付近で検出を終えた流路の敷葉については、写真撮影をおこないました。



①1/14 井戸中央の曲げ物抜取り穴。



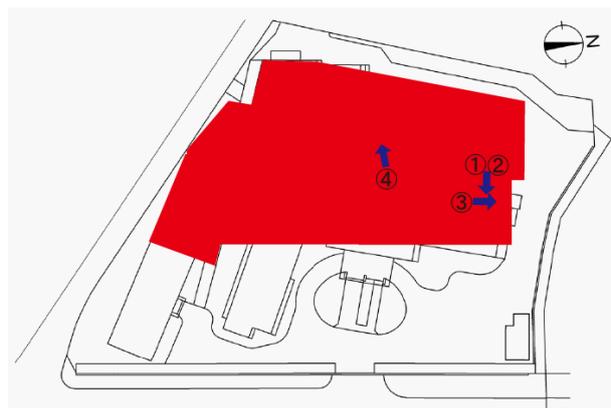
②1/16 井戸は底の曲げ物抜取り穴まで完全に掘り下げた。



③1/16 井戸の中から井戸枠をみたところ。やや黒っぽくなっているのは礫による圧痕。



④1/16 流路最下層敷葉の写真撮影。



奈文研本庁舎発掘だより

第36回 2015年1月19日（月）から1月23日（金）まで

調査区北部で下層遺構の掘下げを進めました。北部一帯にひろがる沼状の泥土堆積は、部分的に掘り下げて埋土の断面を記録しました。これに東からそそぐ東西溝の埋土からは雑木や杭とともに、わずかに弥生土器が出土しました。井戸の掘方とつなげるかたちでトレンチを設定し、自然堆積層の記録と花粉や土壌の分析のためのサンプリングをおこないました。これにより奈良盆地西北部の旧地形復元に資する貴重なデータを得ることができました。



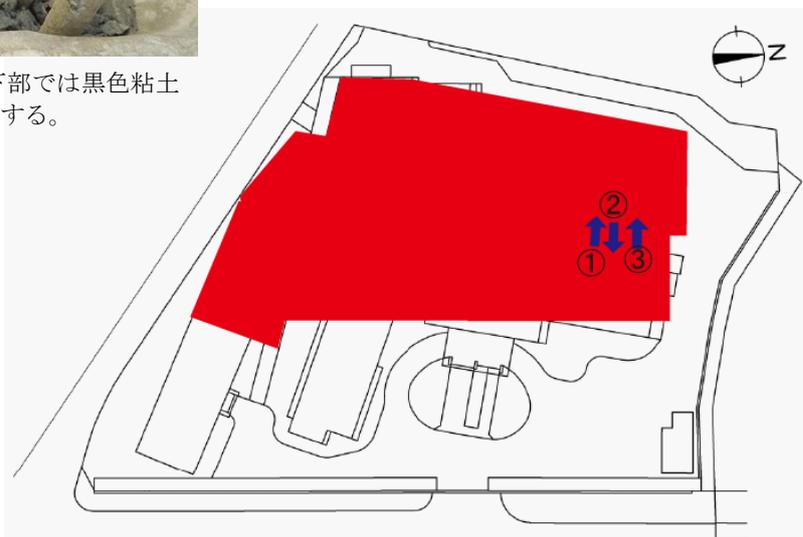
①1/20 沼状の泥土堆積にそそぐ東西溝の断面。



②1/20 沼状の泥土堆積にそそぐ東西溝の断面。埋土からは雑木などのほか弥生土器が出土した。



③1/21 井戸の掘方の西断面。下部では黒色粘土と淡青灰色粘土が互層に水平堆積する。



奈文研本庁舎発掘だより

第 37 回 2015 年 1 月 26 日（月）から 1 月 30 日（金）まで

秋篠川旧流路の堆積や埋没の様相を解明する目的で、断割調査による断面観察をおこないました。また、旧庁舎の地下室で壊されていた調査区東北部では、その部分の壁を利用して、地層の観察をおこないました。さらに、この壁を秋篠川旧流路の北肩部分まで伸ばした南北の断割トレンチを設定し、地層の観察や河岸の調査をおこないました。その結果、秋篠川旧流路の水流が、数万年前と推定できる水平堆積の地層を削って段丘状の河岸を形成していることがわかりました。また、調査区北部では、南北方向の溝や沼状の泥土堆積にそそぐ東西溝との重複関係等を明らかにしました。



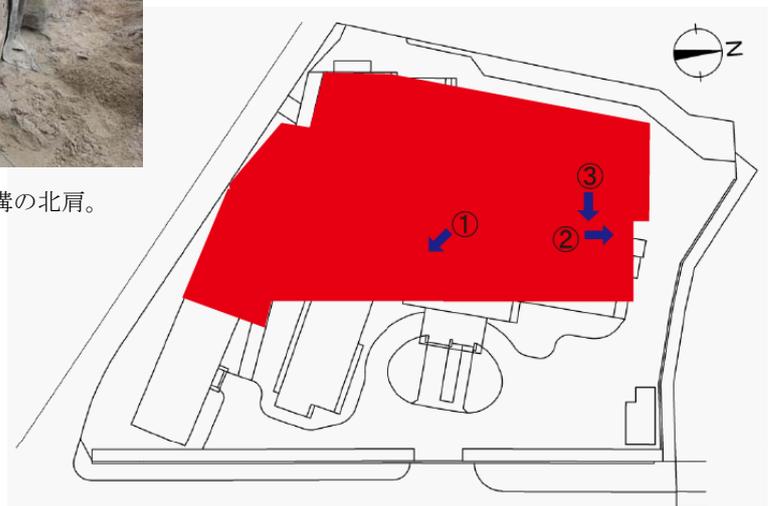
①1/28 秋篠川旧流路の北肩の断割調査をおこなった。埋土が若干残る。



②1/28 調査区北部の南北溝。遺物がほとんど出土せず、詳細な時期は不明。



③1/29 沼状の泥土堆積にそそぐ東西溝の北肩。わずかに弥生土器を含む。



奈文研本庁舎発掘だより

第 38 回 2015 年 2 月 2 日（月）から 2 月 6 日（金）まで

沼状の泥土堆積にそそぐ調査区北部の東西溝は、東から西に向かう急斜面を流れ下ることがわかりました。この溝の下層には幅広の東西溝があります。この幅広の溝は膨大な量の粗砂で埋まり、その後、この北側に重複して細い東西溝が開削されます。細い東西溝には弥生時代の土器を含みますが、幅広の東西溝には遺物を含まないため、詳細な時期は不明です。秋篠川旧流路については、地質学の専門家を招き、堆積や埋没の様相について意見交換をしました。



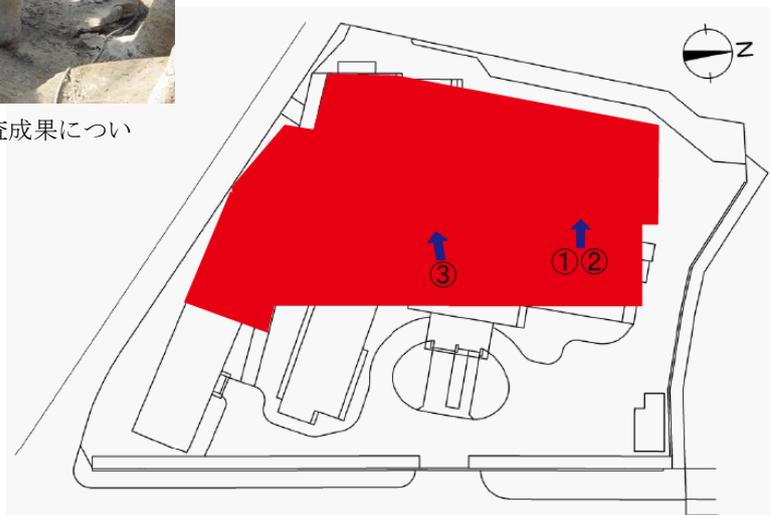
①2/3 沼状の泥土堆積にそそぐ東西溝(奥の壁)と幅広の東西溝(手前)。



②2/6 幅広の東西溝の掘下げ後。



③2/4 地質学の専門家を招いて調査成果についての意見交換をおこなった。



奈文研本庁舎発掘だより

第 39 回 2015 年 2 月 9 日（月）から 2 月 18 日（金）まで

北側溝より北側の断面で溝の改修の痕跡を確認しました。平面を精査した結果、北側溝の北岸は、これまで確認していたものよりも古い時期に、調査区の東部と西部でそれぞれ改修がなされたことがわかりました。東部の改修の時期は不明ですが、西部では奈良時代中頃の土器を含む暗黒褐色粘土が堆積した後に、改修されています。この暗黒褐色粘土の上では、ヒトやウシの足跡を検出しました。これらを記録し、調査成果のとりまとめの段階に入りました。



①2/13 一条南大路北側溝北岸の改修について、平面の精査をおこなった。



②2/13 北側溝北岸の改修は、調査区の東部と西部で時期が異なることがわかった。



③2/16 北側溝北岸西部に広がる暗黒褐色粘土の上面で見つかったヒトの足跡。

